



タンザニアにおけるJICA事業

タンザニアのポテンシャルを活かすために私たちができること

2025年7月

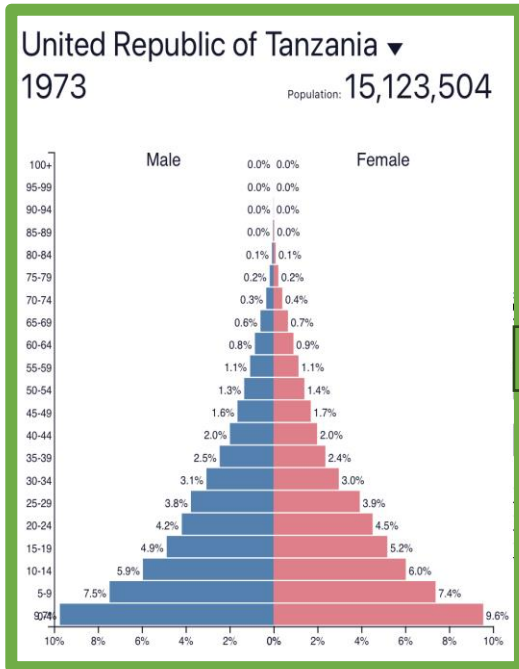
本日の内容

- はじめに
- タンザニアの概要
- タンザニアへの重点分野等
- JICAの代表的な取組
 - 農業
 - 産業開発
 - 民間連携事業
 - 都市交通
 - 地方行政／研修
 - ボランティア
 - ジェンダー・レディースファースト

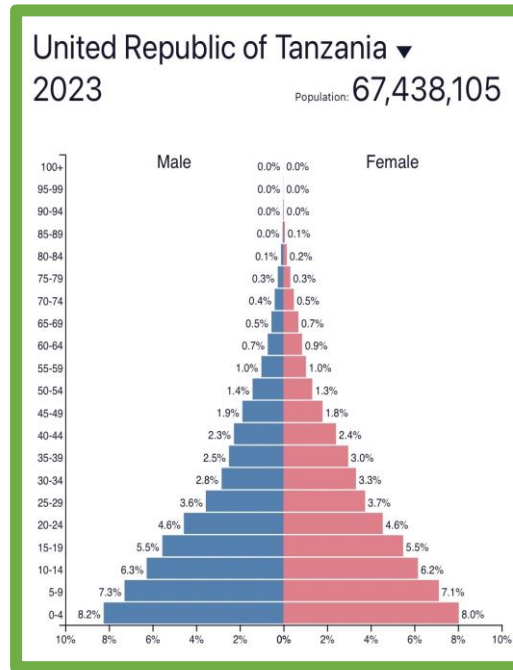
タンザニアの概要(面積、人口等)

面積	94.5万km ² （日本の約2.5倍）
人口	6,550万人・人口増加率3.2%（2012年比）（2022年） サブサハラ・アフリカ地域（SSA）49ヶ国中5位
宗教	キリスト教(63%)、イスラム教(34%)、その他
一人当たりGNI	1,210USD(2023) 720（2010）→960（2015）→1,050（2020）→ 1,210USD（2023） 2023年分類で「低中所得国」
格差（ジニ係数）	40.5（2018）（世銀）

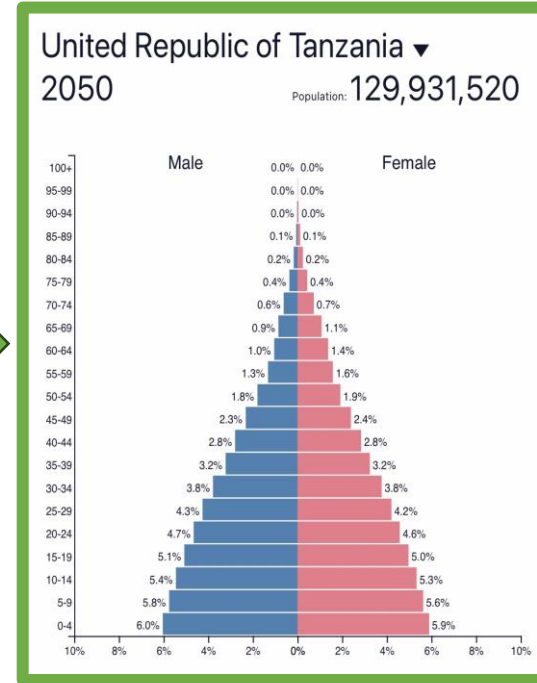
タンザニアの概要：急増する人口、若年層



50年前

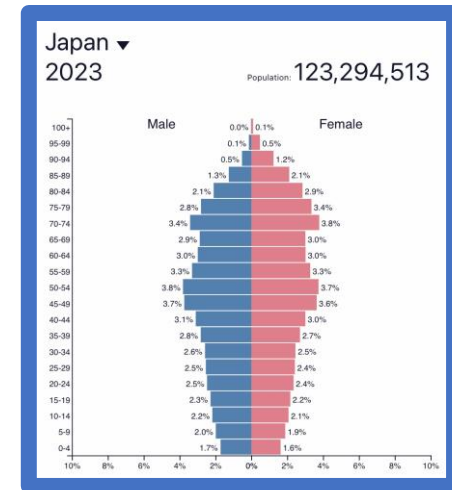


タンザニアの現在



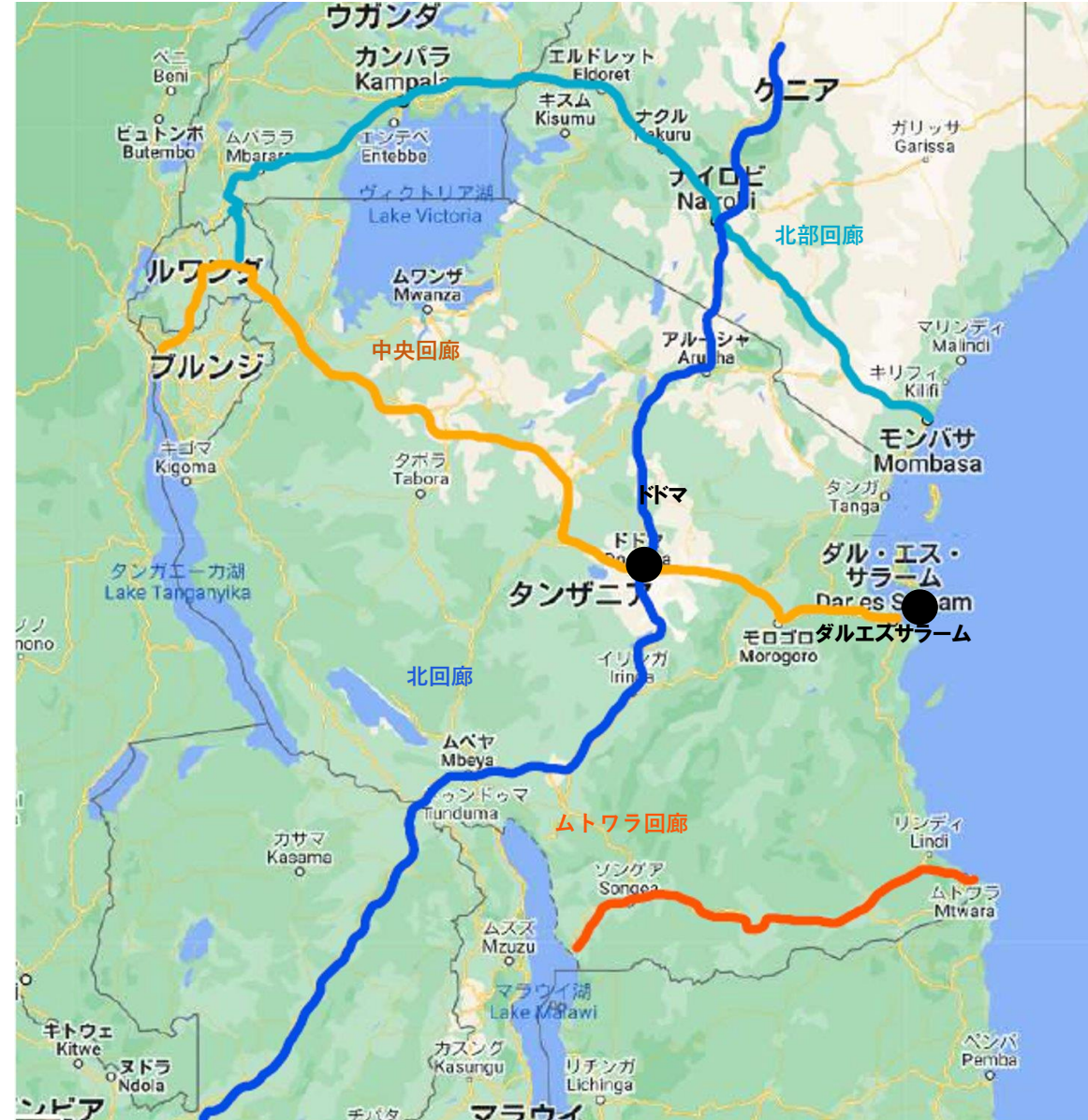
27年後のタンザニア

日本の現在



タンザニアの概要(地政学)

- インド太平洋地域とサブサハラ・アフリカをつなぐ重要な位置。
- 近隣内陸諸国にインド洋へのアクセスを提供。



タンザニアの概要(経済・産業)

経済構造

GDP構成比

第一次産業（農林漁業）： 25.9%

第二次産業（建設業、製造業）： 29.3%

第三次産業（小売業、輸送業）： 34.3%

国民の約 6 割が農業に従事

経済成長

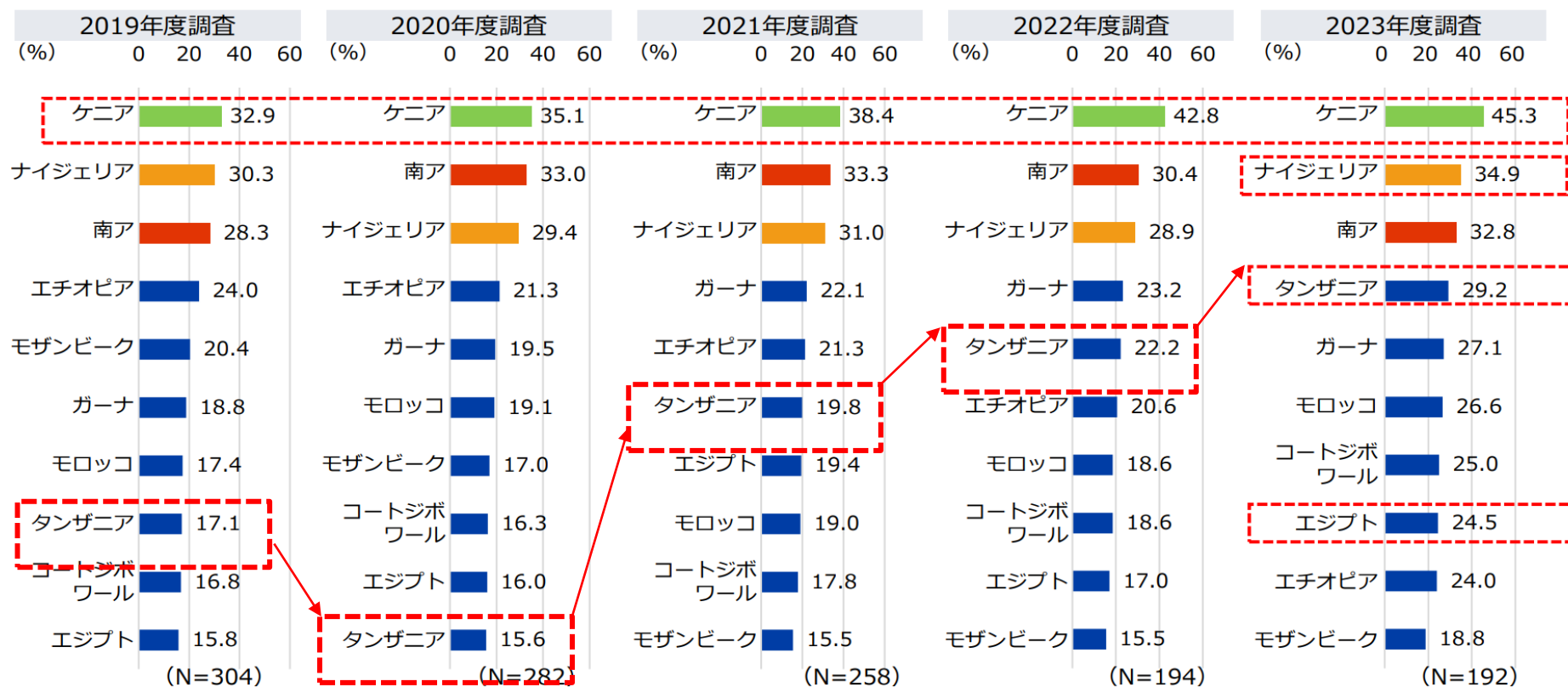
2013年以降コロナ前までは 6 %台で安定して推移

コロナの影響を受けたが21/21年でも4.9%の成長を確保し、それ以降 5 %台で成長

タンザニアの概要(ビジネスポテンシャル、日本企業の関心)

- ・ サミア政権は輸出振興・投資誘致を目指し経済外交やビジネス環境整備に積極的。
- ・ 人口増加、市場の将来性、インフラ開発、鉱物資源、農業・農業機械、良好な観光資源（自然）の保全状態、天然ガス、発電・送配電等の潜在性によりタンザニアは企業にも注目されている。

注目国上位10か国の推移（複数回答）



包摂的で持続可能な経済成長に向けた経済・社会開発の促進

1. 経済成長をけん引する生産セクターの育成・裾野の拡大

- 農業開発（水産・畜産含む）
 - 商業化・産業化促進プログラム
 - コメ生産振興プログラム
- 産業開発プログラム

2. 経済・社会開発を支える環境整備

- 基盤インフラ整備
 - 運輸・交通セクタープログラム
 - 電力セクタープログラム
- 都市環境改善（都市開発プログラム）
- 公共財政管理支援プログラム

3. 包摂的・公正な社会の実現

- 地方行政強化支援プログラム
- 保健システム強化プログラム

■ 気候変動

■ ジェンダー

■ 民間企業と
のコレクティ
ブインパクト

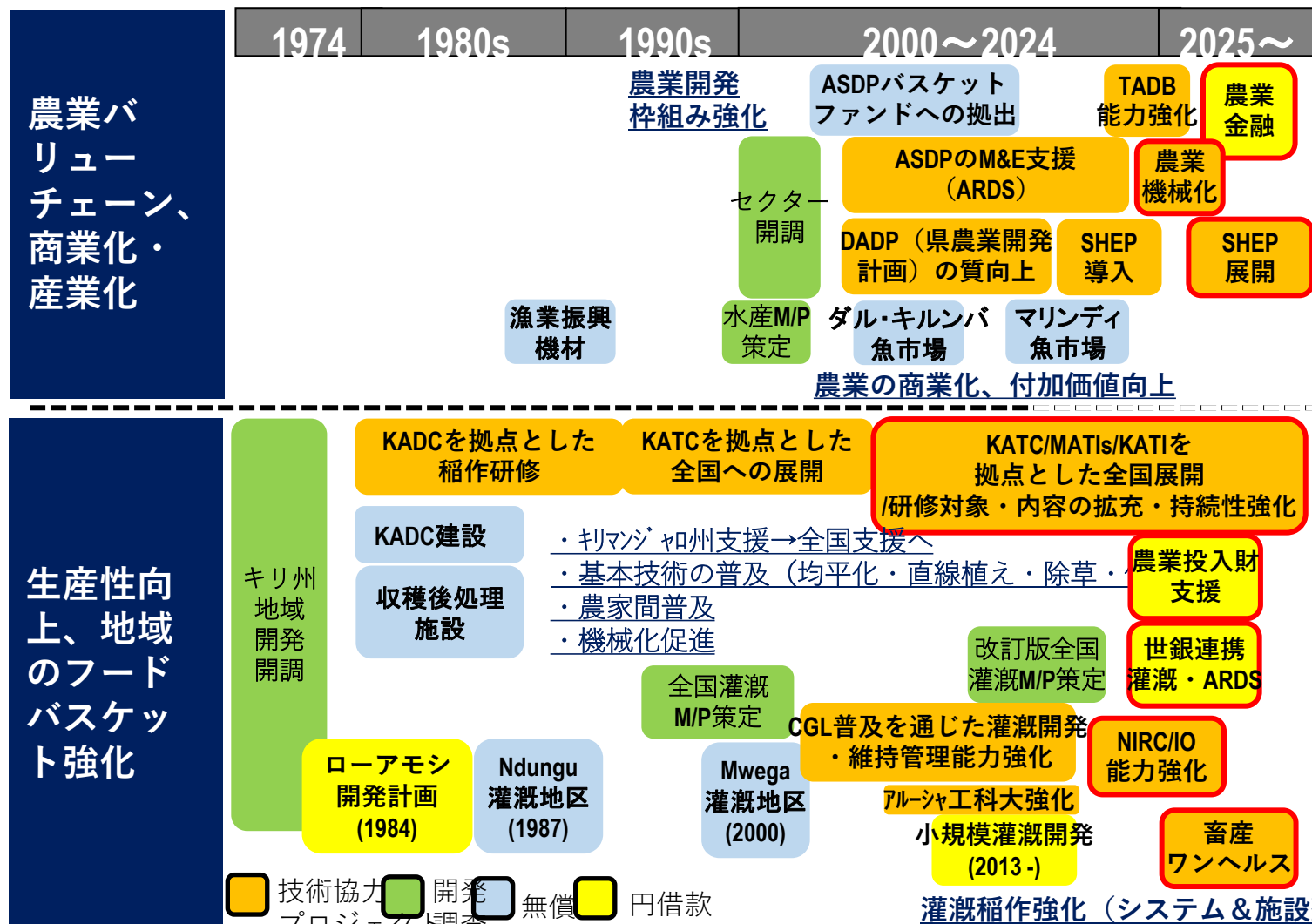
■ D X

■ 協創

JICAのタンザニアでの代表的な取組

農業

- アフリカ有数の農業国（生産量：コメは4位、メイズは5位（2022年））。アフリカのフードバスケットの中核国としての期待。就労人口の約7割、輸出額の約3割を占めるなど、経済成長・貧困削減のカギ。
- 一方、農業従事者一人当たりの付加価値は、世界平均よりも低い（32位/SSA）＜生産性の向上、商業化・産業化が課題



□ JICAの支援の特徴

1. 長期的な協力
2. ソフト&ハード
3. 国全体をカバー
4. 農業開発枠組みの強化
5. 技術協力×資金協力×民間×ボランティア



Market survey by farmer groups
in Arusha



産業開発

- ❑ 産業の多様化・高度化、若年層をはじめとする高い失業率が課題。
- ❑ 国内外からの投資促進に必要な、透明性の確保、ビジネス環境の整備が不十分。

❑ 強靱で包摂的な経済発展、雇用創出

- 民間投資の促進
- 中小・零細企業の品質・生産性の改善
- ビジネス環境の整備
- 高度技術人材、産業人材の育成
- スタートアップエコシステム



民間連携事業

- 開発途上国が抱える社会・経済上の課題解決のために、日本の民間企業による優れた技術・製品を活用したビジネスづくりを支援。
- **2010年以降30件の調査・事業、1件の海外投融資を実施**



民間連携事業



- 都市化が急速に進み、都市環境の悪化が課題。それに伴う都市インフラの整備・強化及びスプロールの防止等の的確な開発促進・管理が必要。
- タンザニア及び内陸国への物流の起点であるダルエスサラームの機能強化

日本の支援（開調）



同MPで84のプロジェクトが提案され、
タンザニア政府、他ドナー等の連携により、**79.6%が実施済み・実施中**



ムウエンゲバスターミナル（政府）



ニューバガモヨ道路（無償）



タンザナイト橋（韓国輸銀）



BRT
（アフ開銀、世銀、AFD）



ウブンゴ立体交差点（世銀）



タザラ立体交差点（無償）



グレザニ橋（無償）



立体交差点
協力準備調査（有償）

□ JICAの支援の特徴

1. 計画づくり
（マスタープラン）
2. ソフト・ハードでの支援
3. 日本の経験

- 研修員受け入れ実績：約2万2千人（1962～2023年度）
- 帰国研修員との協創
- TOA（タンザニア大阪研修同窓会）





- TOAは「地方政府改革プログラム（通称「大阪研修」）」の帰国研修員が2006年に立ち上げた同窓会。
- 全州行政長官（全26州）、全県行政長官（全185県）が所属するタンザニア唯一の公的な行政官組織に発展
- 日本での研修には228名が参加。帰国後の現地国内研修（2003～2019 年度）には、約6,400人が参加。

■ 概要

- 派遣開始年:1967年
- 派遣累計 : 1,714人 (男性:1,215名、女性 : 499名)
- 派遣中 : 35人 (2025年6月時点)

■ 主な派遣分野

● 教育/スポーツ分野

- 小中学校での理数科、体育科目の支援
- 職業訓練学校での技術系分野の支援 等



● ガバナンス分野

- 地方自治体での住民の収入向上、生活改善活動等の支援 等



● 保健分野

- 母子保健、公立病院での5S活動支援 等



● 農業分野

- 農家への栽培技術の普及、SHEPアプローチの紹介 等



ジェンダー、レディース・ファースト

- 目的：ジェンダー平等、女性のエンパワメントとスポーツ振興
スポーツの機会が少ない女性に、目標となる場の提供
- 日本でも活躍したイカンガー氏の発意
- 約1500人が参加（タンザニア女子選手：134名）



ありがとうございました